

令和5年度第3回宮崎県循環器病対策推進協議会 会議概要

1 日時

令和6年1月25日(木) 午後6時30分から午後7時20分まで

2 場所

宮崎県防災庁舎5階 防53号室

3 出席者

・委員

牛谷義秀委員、大田元委員、落合秀信委員、海北幸一委員、金丸吉昌委員、児島慎也委員、柴田剛徳委員、花田智委員、濱畑美奈子委員、林正太郎委員、古川貢之委員、又木真由美委員、脇田浩之委員

(50音順)

・関係各課

医療政策課、国民健康保険課、長寿介護課 医療介護連携推進室、感染症対策課、雇用労働政策課、スポーツ振興課担当職員

・事務局

健康増進課

4 議事

第2期宮崎県循環器病対策推進計画案について

その他

5 議事について委員からの主な意見

○第2期宮崎県循環器病対策推進計画案について

委員) 示していただいた計画案自体、特に大きな問題はないと私自身は思います。以前も聞いたかもしれないが、資料4 ロジックモデルの急性期の心臓血管治療の質が確保されているか、いろいろ目標が掲げられているが、虚血性心疾患に対する心臓血管外科手術の件数、これが現状値7.1で、全国値11.6。目標値「増加」というような目標が掲げられているが、確かに増加させたいわけだが、かなり大ざっぱ。具体的な方法、何をもって増加させるようなことが図れるのか。今ここで質問するべきではないかもしれないが、結構アバウトな「増加」。他のことに関しても、もう少し具体的にどのように考えて、進めていくのかということをお聞きしたいと思います。

県) 本当に手術件数が増えた方がいいのかというのはよくわからないが、全国値より数字がいいものについては維持、それから全国値より数字が悪いものについては、全国値と同じところにいきたい形を書いているところです。真に正しいのか、我々にもわからないところがあるので、基本的にはそういう形で増加維持を記載させていただいているとお考えいただいてもいいかなと思っています。例えば医師数や医療機関を増やすという記載をするのは簡単ですが、本当にそれをどうやって達成するのかという、私たちが心臓血管の医師を直接増やすことも出来ないし、宮崎県全体で医師数も足りない状況です。小児科と産婦人科医については色々施策を打っている

ところですが、全国の外科医の数については問題になっていると思います。その点については、どういうことができるのか、皆様と一緒に、議論をして、できることをやっていけたらと考えているところです。

委員) 計画案に関しては、全国的に割と類似した同じような計画書で、こういうふうによくしかないのかなという計画書ではあるのですが、循環器協会が大体的にCMとか流していますので、全国的に少しレベル的には良くなってきている中で、宮崎県が全国平均よりも良くしていくには、宮崎県は何をやったらいいのか、そこだと思います。令和6年度に宮崎ではこれを大きな取り組みとしてやっていきますというものがあるかどうか。発症自体を抑えるということが一番大事。これによって、医療経済的にも削減できます。前からずっと言っていますが、そこを、宮崎県の大きな取り組みとしてやっていく、具体的に打ち出していただくとありがたいなと思います。またそれに対してある程度の予算を設定していただけないと、本当微々たる予算で、他力本願でやろうと思っていると、結局何もできない。この計画期間、ロジックモデルの指標が上下するだけで、結局何も改善しない。会議を重ねても平行線で、画期的な取組が見られなければ、ずっとこんな感じ。ですから、今年これを来年度はこれをやります、というのがあっていいと思います。

県) 先般のコロナの影響もございまして、健康増進課として本来取り組まなければならないところで取り組めていなかったところもあるのではないかと考えているところでございます。集合形式での公開講座等や市町村にお伺いして働きかけをする等もできなかったところでございます。県では今年、健康づくりの健康みやぎき行動計画の改定時期もございまして、生活習慣病の予防に対する対策を策定しているところです。子供から大人までそれぞれのライフステージに応じて、どのように県民の皆様健康づくりに取り組んでいただくか、実施した調査の結果も踏まえて、分析しながら、策定しているところでございます。とはいえ、計画を立てるだけではなくて、立てた後、実際にその方向性に向けて、実施していくという所が大切であると思っております。確かに予算というところもあるのですが、予算についても、委員、市町村、関係機関の皆様からのご意見を伺い、限られた予算の中で、どういう施策を打っていくのがいいのか、日々検討を重ねているところではございます。循環器につきましては、県民の皆様へ届くような施策が必要だということ、そのとおりでございますので、今後とも、委員の皆様御意見を伺いながら、行政として何ができるのか考えながら、皆様と一緒にやらせていただきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

○令和6年度脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業について・その他

委員) 費用的な負担と、あとはこの総合支援センターを担えるような人材ということが、かなり大きな問題になってくると思います。

県) 本課におきましても、他県の取り組みですとか、どのようなスキームで、どういう方が配置されているとか、そのあたりの勉強をさせていただきたいと思っております。

委員) せっかく集まって話し合いを持たれても、次の1歩がない。ドクターを集めるのはほとんど不可能です。ただ、宮崎でできる予防というものを協議会委員全員で考えて、取り組む姿勢を議論して、市の医師会や県の医師会を交えて、協力していただいて、やってみるとというのが、宮崎でできることかなと思って聞いていた。やはり

予防というのはとても大事で、それによって健康寿命が延びるということに繋がります。みんなでせっかく考えているのだから、みんなこれだけ集まっているので、ぜひ意見を出して、それができるかどうかみんなで議論して、お金も考えて、そして1歩進むというのはいかがでしょうか。

県) ありがとうございます。大変ありがたい御助言をいただきました。どのような形で、皆様の意見をお伺いすることができるかをまず検討し、ご相談させていただきたいと思います。